

「春日百姓インターン」実施報告書

【実施要綱】

タイトル：春日百姓体験ワークショップ

活動場所（宿泊）：岐阜県揖斐郡揖斐川町春日（泊：長者の里）

開催日時：9月22日～24日（2泊3日）

講師：春日古（いにしえ）学び 田口龍治氏ほか

参加者数：3名

対象者：①大学生、大学院生

②感想を含めた体験のレポートとPRのためのアンケート調査に協力できる方

参加費：4,000円（食費・宿泊費）

主催：NPO法人地域の未来・志援センター

協力：春日古（いにしえ）学び

【スケジュール】

<1日目>

8:50 現地集合（養老鉄道 揖斐駅）

9:30 春日古学び田んぼ見学（無・農薬化成肥料栽培のプチ棚田）

10:30 オリエンテーション

12:00 昼食 ※持参弁当

13:00 草木染め・機織り体験

16:30 夕食準備

18:00 春日古学びの皆さんとの交流会

21:00 入浴、就寝

<2日目>

8:00 朝食準備・朝食

9:30 稲刈り体験はさ掛け体験

12:00 昼食

13:00 はさ掛け体験

16:30 夕食準備

18:00 春日美束地区住民・春日古学びの皆さんとの交流会

※アースデイいびがわ お茶漬け選手権の試食会含む

21:00 入浴、就寝

<3日目>

7:30 朝食準備・朝食

10:00 春日地区の運動会を見学

11:00 麻蒸し用かまど・麻発酵床見学 発酵作業体験

12:00 昼食

13:00 麻はぎ&麻ひき体験

16:00 感想共有

17:10 解散（揖斐駅）

【内容】

< 1日目 >

1. 貝原棚田・春日古学び田んぼ見学

貝原棚田と春日古学びの無・農薬化成肥料栽培の田んぼを見学。移住者田口さんより、地元の方々から教わったこと、お米の種類などについて解説。



刈入れ前の貝原棚田でレクチャー

2. オリエンテーション

全体プログラムの概要説明 (三ツ松)

ワークショップへの想い (田口氏)

自己紹介 - アイスブレイク

3. 草木染め・機織り体験

この辺りで採れる植物を使つての草木染め、機織りを体験。かつて日本で行われていた手作業を通してものづくりの大変さを知り、そこから生まれる「物を大切に使う気持ち」を味わった。

4. 春日古学びの皆さんとの交流会

地元で捕れた鹿肉でバーベキューをしながら移住者の方々と交流。美東での暮らしや想いを伺った。夕食準備では薪割りや着火剤を使わない火おこしも体験した。



染色後、想像を超えた模様が生まれる



地道な機織り作業を体験



春日古学びのみなさんと

< 2日目 >

1. 稲刈り・はさ掛け体験

無・農薬化成肥料栽培の田んぼで手作業によるはさ掛け用の台座作りの見学と、稲刈り・はさ掛けを体験。

農業の今と昔、手作業と機械作業の違いを伺いながら、体験を通して食と農について学んだ。

2. 春日美東地区住民・春日古学びの皆さんとの交流会

前日の春日古学びの皆さんに加え、春日美東地区住民のお三方と夕食を取りながら交流。

移住者と受け入れる地域の方が祭りによって関係性を築いてきたことや、互いに尊重しあい、助け合いながら、美東での暮らしを大切に育て続けていることなどを伺った。

お茶漬け選手権の試食会準備ではアマゴの炭焼きを体験した。



黙々と稲刈り作業をする参加者

<3日目>

1. 春日地区の運動会を見学

前日の交流会で地元の運動会がこの日に行われることを知った参加者から見学の希望があり、急遽プログラムを変更。運動会では幼稚園児、小学生、中学生の競技のほかに、地区対抗の綱引きも行われる地域の方々にとって大切な行事。元々の住民と移住者が一緒になって地域を盛り上げ、子どもたちを守り育てている様子が印象的だった。



力を合わせて綱を引く
美東地区のみなさん

2. 麻蒸し用かまど・麻発酵床見学 発酵作業体験

地域の方たちに教えてもらいながら作ったという麻蒸し用かまどを見せてもらった後、麻の発酵床で麻に発酵菌を付ける作業を体験。この地方ではかつては麻を栽培し、繊維を採っていた。そのころの暮らしや、それぞれの作業の意味や知恵を学んだ。



菌を付けた麻茎を発酵床へ

3. 麻はぎ & 麻ひき体験

発酵した麻茎から繊維を剥ぎ（麻はぎ）、表面の余分なところを削り取る（麻ひき）と綺麗な麻の繊維が取れる。発酵具合が良くないと綺麗に麻はぎができない。衣服を一着作るのにはたくさんの麻が必要で、できるのはひと冬で一着程度だったという。一日目の染色や機織りも含め、昔は衣類を作ることがとても大変な作業だったことを感じる。「物を大切に使う気持ち」が更に深まり、また、それと同時に手作業の面白さも感じ、古（いにしえ）から学んだ知恵を継承していくことの大切さも教わった。



真剣な表情で麻をひく参加者

<まとめ>

地元の方々から、昔この地方で行われていた様々な文化を学ぶ「春日古（いにしえ）学び」の方々から衣、食、農を学び、同時に地域コミュニティについても学ぶことで、私たちの「暮らし」を見つめ直す機会となった。

後日提出してもらった参加者の体験レポートからも、その地域に足を運び、そこで寝泊まりをして、そこにある空気を一緒に吸いながら作業しなければ学べないことを受け取ったことがわかる。

また、大学生3人が受け入れてくださった春日美東の方々に与えた影響も少なからずあったようだった。地域の人たちに受け入れてもらった移住者の方々が、今度は地域の人として来訪者を受け入れる。そうして伝えられ、紡がれていくものに美しさと力強さを感じた。

